

老舗ロックバンドの熱い演奏

センチメンタル・シティ・ロマンス コンサート

老舗ロックバンド「センチメンタル・シティ・ロマンス（通称センチ）」のコンサートが2月27日、文化会館小ホールで行われました。1973年に名古屋市で結成された「センチ」は、日本で最も息が長いロックバンドとして知られ、当日は市内のみならず市外からも多くの方が会場に詰め掛け、満席となりました。メンバーの息の合った演奏が始まると、一曲ごとに会場から歓声上がり、中には立ち上がってリズムをとる観客もいました。



円楽さん 14年ぶりに公演

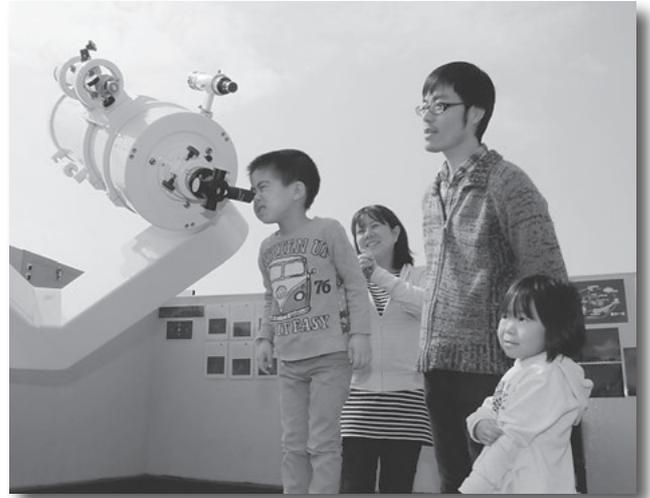
三遊亭円楽独演会

三遊亭円楽独演会が2月28日、文化会館大ホールで行われました。西尾市では14年ぶりの公演で、会場には1,000人を超える観客が詰めかけました。はじめに三遊亭愛楽さんが高座に上がり、小唄などで会場を沸かせた後、「待ってました」の掛け声と大きな拍手に迎えられ三遊亭円楽さんが登場。人気テレビ番組「笑点」に出演している大喜利メンバーの話や、古典落語の「短命」と枝雀作円楽改作「行ったり来たり」を披露し、巧みな話術で会場の笑いを誘っていました。



美しい満天の星空

天体観望会



天体観望会が3月5日、寺津ふれあいセンターで行われました。午後1時から行われた太陽観望会では、太陽のプロミネンスや金星などを観察しました。午後6時30分からの夜間観望会では、M41散開星団やオリオン座大星雲、木星などを観察しました。望遠鏡で木星を見ていた子どもたちは「茶色と白色の模様がきれい」「小さな衛星が見える」と興奮気味に実況していました。同センターでは、毎月第1・第3土曜日に天体観望会を行っています。

郷土の偉人の志を受け継ぐ

尾崎士郎賞表彰式



第3回尾崎士郎賞表彰式が2月20日、吉良図書館で行われました。生活の中の心の動きや感情を生き生きと表現したもの、尾崎士郎やその作品に関するものをテーマに、全国から小学生の部に1,542点、中学生の部に710点、高校・一般の部に101点、合計2,353点が寄せられました。表彰後、全ての部門から1点ずつ選ばれる最優秀賞と優秀賞の作品が、筆者の朗読で披露されると、会場は温かい拍手で包まれました。表彰式終了後、受賞者とその家族は、特別に無料開放された隣接する尾崎士郎記念館を見学していました。



1200年の伝統を守る天下の奇祭

鳥羽の火祭り

国指定重要無形民俗文化財である鳥羽の火祭りが2月14日、鳥羽神明社で行われました。昼間は2人の神男と約100人の奉仕者が鳥羽海岸でみそぎ神事を営み、身を清めました。夜になり、高さ5mの「すずみ」に火が灯されると、福地と乾地に分かれた「ネコ」と呼ばれる奉仕者たちは次々に炎に飛び込み、すずみの中に納められた「神木」と「十二縄」を取り出す早さを競いました。火の粉の塊をかぶりながらも、燃え盛る炎に果敢に挑む勇ましい姿に、観客からは大きなどよめきと歓声が沸き起こり、祭りは最高潮に達しました。



世界の人たちとところをつなごう

国際交流フェスタ

国際交流フェスタ2016が3月6日、総合福祉センターで開催されました。国際交流や多文化共生を身近に感じてもらうために開催されたもので、東南アジアや南米などさまざまな国の人たちが来場していました。バラエティーに富んだイベントが各会場であり、ふれあいホールでは外国にルーツを持つ子どもたちが日本でがんばっていることを紹介したり、ダンスを披露したりしていました。このほか、地震体験車「なまず号」による地震体験や世界のお茶の飲み比べなどで、異文化交流を楽しんでいました。



福地ふれあいセンターの人気講座

果樹の管理「ミカンの^{せん}剪定」



生涯学習講座・果樹の管理「ミカンの^{せん}剪定」が2月13日、福地ふれあいセンターで行われました。まず、実をつけるのに受粉が必要な品種と不要な品種があることや、新しく伸びる枝に花をつける結果枝と花をつけない発育枝があることなど、ミカンについて受講者は学びました。そして、敷地内の果樹園で実物のミカンの木を前に、講師の説明を受けながら実際に剪定に取り組みました。

寺津の民話をもとに

自作紙芝居語り部活動



寺津小学校6年生の児童が民話をもとにして自分たちの手で作り上げた紙芝居を2月18日、地元の保育園や施設で披露しました。紙芝居は『赤地藏さま』『みのをかけた阿弥陀様』『ゆうれい松』『刈宿の閻魔さま』の4作品。寺津福祉会館では、児童たちが4つのグループに分かれ、高齢者同志の交流に集まった「はまかぜ」の皆さんに4つの紙芝居を披露。それぞれの発表に観覧者は時折、笑顔を見せ、終わりには大きな拍手を送っていました。